

お 知 ら せ

件 名	北るもい漁業協同組合から寄せられたご意見に対する回答について
-----	--------------------------------

お知らせ内容

標記の件について、平成 17 年 7 月に北るもい漁業協同組合からサンルダム建設に関わる意見書が旭川開発建設部に提出されておりましたが、本日、北るもい漁業協同組合に対して意見書への回答を説明し、内容について一定の理解を得て回答を受け取っていただきましたのでお知らせします。

今後とも、サンルダムをはじめ天塩川水系の河川整備の実施にあたっては、漁業団体等関係機関と連携・調整を行うなど地域の重要な産業である漁業に十分配慮した上で進めてまいります。

意見書に関する説明資料につきましては、サンルダムHP
<http://www.as.hkd.mlit.go.jp/sanrudam/qa/index.html> をご覧下さい。

	所 属	電 話 番 号
問い合わせ	旭川開発建設部 治水課	0166-32-1111 内線 3 2 9 1
わせ先	旭川開発建設部 サンルダム建設事業所	01655-4-3634 内線 2 0 0166-32-1111 内線 3 5 8 1

意見書に関する回答

- (1) 日本水産資源保護協会の「ダムと漁業」に掲載されている次の2点について、具体例を示しサナルダムを建設した場合の影響と見解を示すこと。

- 1) 留萌管内の農業用ダムに見られる河川水の濁りの発牛理由とその長期化による影響。

サナルダムの流域は、森林や地質の状態が良いため、水が濁りにくい傾向にあります。同じ地質条件である岩尾内ダムにおいても通常の出水では、濁りの長期化の問題は発生していません。

ただし、平成18年10月に発生した出水においては、岩尾内ダムにおいて大規模な出水があったことから、ダム湖内で流入水質に比べ濁度の高い状態が継続していました。

このような状態に対応するため、サナルダムでは、選択取水設備に加え、適切な対策を講じます。

また、ダム建設による濁水のサクラマスへの影響の有無について、モニタリングを行い、必要に応じて協議してまいります。

2) ダムに貯水し停滞することによる水温差の大きい水の流下現象、即ち、「冷たい水」、「温かい水」や既設の岩尾内ダム等での無酸素層水等の流下による下流域への影響と発生有無の見解。

サンルダムは、適切な温度の水を選択して放流することが可能です。また、岩尾内ダム湖内とダム下流において無酸素状態は確認されておらず、サンルダムについても同様であると考えています。

サンルダムにおいては、流入水温とほぼ等しい水温を放流することを基本とします。

また、ダム建設による水温のサクラマスへの影響の有無について、モニタリングを行い、必要に応じて協議してまいります。

- (2) サンプルダム建設によってサクラマス資源に与える影響評価とその改善策を具体的に示すと共に比較対照できるデータ提供を求める。

- 1) 現在のサクラマス親魚の遡上とサクラマス幼魚(スモルト)の降下状況に対するダム建設後における魚道による親魚の遡上と常用洪水吐等からの降下状況の比較を行いその影響と対策を示すこと。

サンプルダムにおいて、専門家の意見を聴きながら、サクラマスの遡上・降下対策を実施します。

現状の遡上・降下環境に負荷を与えずに、必要に応じて試験を行い、魚道の効果を確認します。また、降下対策の機能が確認できるまでの間、降下期に水位を下げる運用を行います。

あわせて、天塩川流域全体のサクラマス資源の保全・回復に努めます。

これらの対策も含めて、ダム建設による遡上、降下に関するサクラマスへの影響の有無について、引き続き協議してまいります。

2) ダム建設後の湛水によるサクラマス産卵床の消失に係わる影響とサクラマス資源の再生産へ影響と対策を示すこと。

ダム湖により水没する産卵適地については、平成17年、平成19年、平成20年の調査結果では約2～7%消失すると推定されます。このため、ダム上流域で遡上が困難になっている箇所について、魚がのぼりやすくすること、また、サンルダムにおいて、サクラマスの遡上・降下対策を実施することにより、サクラマス資源に影響がないよう努めます。

また、あわせて天塩川水系全体では、さらに改善を図るよう、遡上・降下対策についても関係機関と連携して推進します。

これらの対策も含めて、ダム建設によるサクラマス産卵床への影響の有無について、引き続き協議してまいります。

3) ダム建設後の湛水による流れの停滞によって、湖内の上層と下層に水温格差が発生し、湖内におけるサクラマス幼魚の生息環境と陸封型化等の生態に影響が生じることが懸念されるが、これについての影響と対策を示すこと。

サンル川のサクラマス幼魚(スモルト)の降下時期は融雪期であり、湖内の水温格差は少ないため、影響はないものと考えています。

サクラマスの降下にあたっては、適切な対策を講じて影響がないよう努めます。

また、ダム建設によるサクラマスの生態への影響の有無について、モニタリングを行い、必要に応じて協議してまいります。

4) ダム建設後の冷水対策として、表層の暖かい水を選択的に取水することが行われているが、ダム湖内の珪藻類やダムからの放水直下において、河川水温の上昇による藻類等の異常繁殖による生息環境の悪化の例が有るが、これについての影響の有無と対策を示すこと。

サンルダムは、下流域への影響がないよう、ダムに入ってくる水の温度に近い水温の層から取水し、常時、ダム直下に放流します。

したがって、ダム直下で藻類等の異常繁殖が発生することはないと考えています。

なお、ダム建設によるサクラマスへの影響の有無について、モニタリングを行い、必要に応じて協議してまいります。

5) ダム建設後における堆積物による底質のヘドロ化や浮遊物の腐敗沈殿等による水質条件悪化が懸念されるが、その影響と対策を示すこと。

同様の流域である岩尾内ダムにおいて、ヘドロ化等の問題は発生しておらず、サンルダムにおいても同様と考えています。

また、ダム建設による水質の変化によるサクラマスへの影響の有無について、モニタリングを行い、必要に応じて協議してまいります。

6) サンプルダム建設を前提とするサクラマス資源に係わるこれまでの調査結果の報告と説明を求める。

1) サクラマス幼魚(ヤマメ)の生息密度調査

サンプルダムが建設された場合のサクラマスの影響を把握するため、湛水予定域を含めたサンプル川本支流域に広範囲に調査地点を設けてサクラマス幼魚(ヤマメ)の生息密度を明らかにし、サンプル川本支流におけるサクラマス資源量の推定と、その動態を把握することを目的として調査を実施しています。

2) サクラマス幼魚(スモルト)の降下調査

サンプル川におけるサクラマス幼魚(スモルト)の降海状況及び降海時期の実態を把握することを目的として調査を実施しています。

3) サクラマスの産卵床調査

ダム湛水予定域を含めたサンプル川本支流に代表する調査区間を設定し、サクラマス産卵床の分布状況及びサンプル川本支流のサクラマス資源量を把握することを目的として調査を実施しています。

4) サクラマス幼魚(ヤマメ)の越冬環境調査

ダム湖によって消失するサンル川本流の越冬場・生息場を把握すること、及び越冬期におけるサクラマス幼魚(ヤマメ)の好適物理環境条件を把握することを目的として調査を実施しています。

7) ダム建設による流量の減少と安定化によって、天塩川下流域における塩水遡上の変化によるシジミ資源等への影響が懸念されるが、その影響の有無と対策及び調査等の実施について具体的に示すこと。

サンルダムの調節により、天塩川河口において、中小の洪水時や濁水時に大きな流量の変化が生じることはなく、塩水遡上に影響することはありません。

なお、ダム建設によるシジミ生息環境への影響の有無についてモニタリングを実施し、継続して協議します。

また、天塩川水系河川整備計画を踏まえて、留萌開発建設部及び関係機関と連携して、シジミ生息環境である汽水域の河川環境の保全、整備に努めて参ります。

8) 既存の岩尾内ダム現状と問題点から見たサンルダム建設による影響等の比較を検討し、同ダムの改善策も含めた結果について報告することを求める。

岩尾内ダムの水質については、良好な状態ですが下流の河川では一部無水区間が生じています。

これを解消するために、平成18年度に放流設備を設けており、無水区間の改善に努めます。

(3) 追加意見

サンルダムの建設に係わる環境影響評価について、平成15、16、17年の3ヶ年で再評価するとしているが、その結果を示していないため、結果報告を広く関係住民に示すこと。

環境影響評価については、平成7年7月完了し、知事からの附帯意見を踏まえ魚類、植生、気象等の環境調査を継続して実施しています。基礎となるデータについては、既にホームページ等において公開しており、今後とも引き続き必要に応じてホームページ等にて公開します。

遊水地により洪水対策可能との私的見解を取り上げた報道があったが、流域全体での総合的な治水対策とダム建設を対比した十分な検討を加えること。

天塩川の治水対策等については、天塩川流域委員会においても議論されたところですが、開発局としては、天塩川水系河川整備計画に示しているとおり、ダム建設によらない遊水地、河道掘削などは適切ではないと考えています。